

平成28年度

小学校管楽器活動実践事例集（第17集）

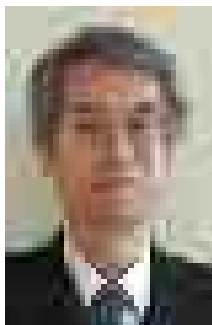


東海北陸小学校管楽器教育研究会

♪ 目 次 ♪

♪ あいさつ				1 ページ
♪ 各地区の実践				
◇ 「楽譜が読める！吹ける！」				
— 演奏の楽しさを感じられる子どもを育む —				
愛知県名古屋立豊田小学校	教諭	二井	進	2 ページ
◇ 「OB・OGから伝統を受け継ぐ部活動」				
— 地域に根差した活動を通して —				
愛知県瀬戸市立八幡小学校	教諭	加藤	暁	4 ページ
◇ 「音楽を通して自ら努力する子どもの育成」				
— もっと美しいサウンドを目指して —				
愛知県碧南市立新川小学校	教諭	山田	朋徳	6 ページ
◇ 「地域に根ざす管楽器活動をめざして」				
三重県神戸小学校金管バンドクラブ	教諭	山中	幾代	10 ページ
◇ 「子供たちの充実した管楽器クラブの活動を目指して」				
— 地域の方や教職員の協働を基盤として —				
富山県射水市立小杉小学校	教諭	高畑	真美	12 ページ
◇ 「体験できるすばらしさに感謝して」				
福井県大野市立下庄小学校	教諭	岩崎比美子		14 ページ
♪ あとがき				16 ページ

ごあいさつ



東海北陸小学校管楽器教育研究会

会 長 山田 純一郎

(知多市立八幡小学校長)

会員ならびに関係各位の皆さま方におかれましては、日ごろより管楽器活動にお力添えをいただき、ありがとうございます。

さて、平成28年度小学校管楽器活動実践事例集(第17集)が完成し、こうして発刊することができました。これも東海・北陸小学校管楽器教育研究会が毎年実践を積み上げ、地道に取り組みをしている成果だと思えます。日々のご指導の賜と感謝するとともに、大変うれしく思います。

実践事例集発刊の目的として「管楽器を活用した実践事例を通して、会員の資質の向上と管楽器教育活動の発展に寄与する。」とあります。管楽器というところでも課外活動をイメージしがちです。けれども、本年度岡山県で行われた全国小学校管楽器教育研究大会では、授業の中に管楽器をどのように取り込んでいくかの提案授業がありました。この提案は、ここ何年も続いている内容で、管楽器をより身近に感じられる取り組みとして、素晴らしいものだと思います。

平成30年度には全国大会を東海北陸地区が受け持つことになっています。前回、富山県で行っていただきましたので、今回は愛知県で行うことで計画を立てています。そのような状況の中、この事例集を見てみると、学校、保護者、地域が協力し合い、工夫しながら活動を続けている様子を伺うことができました。そして、音楽活動を通して、豊かな情操が育ち、音楽の楽しさ、美しさを感じ取っている子どもたちの姿を見ることもできました。

この実践をお読みいただき、このような実践が各県で行われ、子どもたちの感性が磨かれることを期待しています。

最後になりましたが、ご執筆をいただきました先生方をはじめ、関係各位の皆さま方にお礼を申し上げます。今後とも、本研究会への温かいご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

「楽譜が読める！吹ける！」演奏の楽しさを感じられる子どもを育む

愛知県 名古屋市立豊田小学校

教諭 二井 進

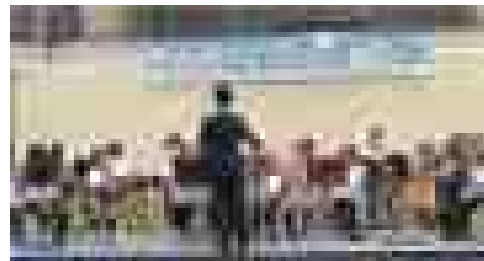
1 はじめに

本校は、名古屋市の南区に位置する児童数430名ほど、17学級(内特別支援学級2)の中規模校である。現在は4年生から6年生まで22名の部員で活動をしている。平日の会議がない日を中心に、年間120日ほど練習をしている。

2 年間活動

一年間の演奏活動は、毎年概ね以下のように行われる。

5月…運動会
9月…南区連合音楽会 敬老会
11月…南区区民まつり
12月…校内クリスマスコンサート
2月…バンド演奏会
3月…お別れ演奏会



【南区区民まつりの演奏の様子】

3 実践報告

(1) 指導の方向

6年生の3学期には、譜面に階名や指番号を書かずに所見で演奏できるようになることを目指し指導をしている。そのためには、平易な曲をたくさん演奏することが大切である。演奏会では演奏しない曲も基礎合奏では練習をするので、1年で20曲近くを演奏することになる。その際、演奏の質がある程度高まってきたと判断したら、次々に楽譜を配布し様々な曲に触れさせるようにしている。

(2) 出席確認と基礎合奏について

机運びや楽器の準備を終えると、必ず出席確認をしている。出席率が高い子どもは成長が早い。出席率が芳しくないも、活動についていけなくなる子どももでてくる。欠席が続きそうな子どもについては、早い段階で理由を聴き、困り感がある子どもについてはフォローをしている。

基礎合奏では、元名古屋市立大高小学校教諭の西村典夫先生が提案している練習曲を活用している。B♭管とE♭管が交互にロングトーンをしたり、みじかいメロディーを吹いたりすることで、合奏へのウォームアップが短時間で効率的に行うことができる。また、パーカッションもメロディーとともにリズムを打つことで、基礎的な演奏の技能が身に付く。

(3) 選曲について

本校は5月に運動会があり、入場行進や表彰の際に演奏をする。入部したての4年生はわずか1か月で本番を迎えることになる。そんな4年生にも演奏の楽しさを味わせたいと考える。そこで、5・6年生には通常の楽譜を渡し、4年生には、簡単に演奏できるよう編曲した楽譜を用意した。そして次の2点を意識して指導した。

1つ目は、高音楽器のコルネットから低音楽器のチューバまで全員が同じリズムを演奏することである。こうすることで、4年だけ取り出して指導する際も効率よく練習できる。

2つ目は、出しやすい音に編曲することである。スコアから和音を読み取り、それに合わせて編曲をしていく。第三倍音（B♭管では実音のF、E♭管ではB♭）が比較的出しやすい音なので、その音を中心に音を配置し編曲することで、4年でもある程度演奏することができるようになる。

(4) 合奏指導について

ある程度楽譜が読める子どもは音源がなくても演奏のイメージを掴むことができる。しかし、そうでない子どもにとっては難しいので、デモ音源を何度も聞かせるようにしている。大きな音量の出るスピーカーとアンプで演奏を繰り返し再生し、その合間に階名や指番号・ポジション番号を書き込んでいる子どもたちを見回りながら指導する。転調したり、臨時記号が付いていたりする箇所については間違えることがよくあるので意識して確認していく。

ある程度、譜面が読めるようになると次の段階へ以降する。私は「リズム→強弱→音色→音程」の順で指導を行うようにしている。

4 成果と課題

以上の取り組みで、子どもたちの演奏の技能は確かに向上している。また、たくさんの曲を経験することで6年生になればほとんどの子どもが初見である程度の演奏ができるようになってきた。

しかし、子ども一人一人が「もっと上手になりたい」という憧れの気持ちを持つことが何物にも代えがたい「技能向上のためのエネルギー」だと感じている。また、演奏会に向けて子どもたちの気持ちを高めていったり、協力し合おうとする雰囲気をつくっていったりすることがこれからの課題と感じている。

5 おわりに

昨今、バンドの指導者が減少し部活をたたむ学校も少なくない。確かにバンド指導には専門性が求められる。しかし、指導内容を精選し、分かりやすく子どもに指導していく技量は、指導者が自ら積極的に学び、研修を積み重ねることで確実に身に付いていくことだと感じている。生涯にわたって音楽に親しめる子どもたちを育むためにも、これからも学び続けていきたい。

OB・OGから伝統を受け継ぐ部活動 —地域に根差した活動を通して—

愛知県瀬戸市立八幡小学校
教諭 加藤 暁

1 はじめに

本校の音楽部は4年生から6年生までの42名が所属している。活動は、基本は週5回。学校の組織の中でも、重要視された活動となっている。地域から愛され、支えられて活動しているので、地域の行事を通して音楽部も成長していきたい。また、30年以上続く伝統のある部活でもある。特に、27年度は定期演奏会が第30回を迎え、卒業生との合同演奏を目標に活動した。

2 年間活動計画（平成27年度）

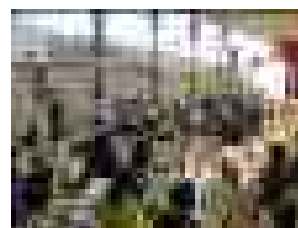
月	主な活動
4月	始業式入退場・校歌伴奏 対面式入退場
5月	
6月	八幡台コンサート
7月	終業式入退場・校歌伴奏
8月	
9月	始業式入退場・校歌伴奏 合唱フェスティバル 運動会
10月	公民館フェスタ
11月	
12月	クリスマス前コンサート 終業式入退場・校歌伴奏
1月	始業式入退場・校歌伴奏 第30回定期演奏会
2月	3年生体験入部
3月	修了式入退場・校歌伴奏 お別れコンサート

3 活動内容

(1) 校内の活動

ア 式での入退場・校歌伴奏

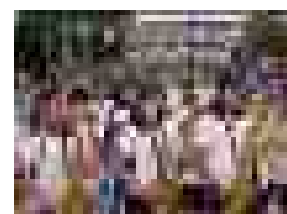
本校の始業式や終業式では、全校児童が入場する際、音楽部の演奏で入場する。入場する子どもたちも静かに入場し、落ち着いた雰囲気です式を始めることができる。また、全校合唱の校歌の伴奏も音楽部に任されている。



【始業式の退場の様子】

イ 運動会

運動会では、開会式の入場曲や「ゴー！ゴー！ゴー！」の全校合唱での伴奏、「君が代」を演奏した。入場曲は、行進して入場するので、毎年マーチを選曲して演奏している。



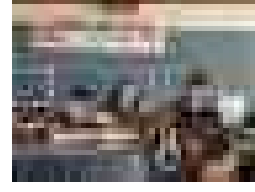
【運動会の開会式】

ウ お別れコンサート

3月下旬、卒業式を迎えた6年生の最後の演奏会。3年間で心に残っている曲を6年生が選曲し演奏する。最後に、今まで支えてくれた保護者や先生、後輩たちに感謝の気持ちを伝える。



【後輩から先輩へ】



【コンサートの様子】

(2) 校外・地域での活動

ア 八幡台コンサート

地域の方が集まりコンサートを行った。音楽部以外にも、地域の吹奏楽団の演奏やアンサンブルなど、色々な方が参加した。最後に大人との合同演奏もあり、子どもたちにとって良い経験となった。



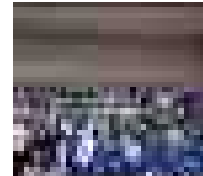
【合同演奏の様子】

イ 合唱フェスティバル

文化センターでの大舞台で演奏させていただいた。このときまでには、少し難易度の高い曲を演奏できるように夏休みに練習をした。「合唱フェスティバル」ということで、毎年、地域の吹奏楽団の伴奏で「花は咲く」と「藤四郎賛歌（瀬戸市の歌）」の合同合唱に参加している。



【八幡小の演奏】



【合同合唱の様子】

ウ 公民館フェスタ

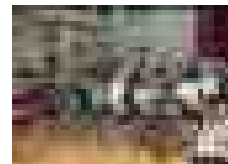
2年に1度行われる公民館フェスタに参加した。地域の公民館の秋祭り。開催のオープニングセレモニーとして、八幡小の音楽部が演奏する。



【公民館での演奏】

エ クリスマス前コンサート

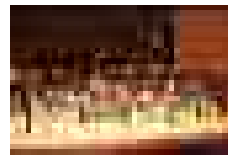
12月上旬に行われる地域のクリスマス会。八幡台コンサートと同様に地域の吹奏楽団やアンサンブル、中学校の吹奏楽部が集まり演奏する。特に、中学校の演奏は、先輩たちの成長する姿を間近に見ることができ、とても勉強になった。



【体育館で行われた
クリスマス会】

オ 定期演奏会

1年のまとめの発表会。文化センターで行った。1年間練習してきた曲を演奏した。この演奏会のために上級生がチームをつくってアンサンブルも披露した。また、27年度は第30回というアニバーサリーの年だったので、卒業生との合同演奏を行った。



【アンサンブル】



【卒業生との合同演奏】

4 おわりに

地域に育てられている音楽部。先輩たちから受け継がれている伝統も大切に育てていきたい。児童数の減少による音楽部の部員減少も大きな課題となるが、変化しながらも子どもたちにとって有意義な活動になるように支援していく。

音楽を通して自ら努力する子どもの育成 —もっと美しいサウンドを目指して—

愛知県碧南市立新川小学校

教諭 山田 朋徳

1 はじめに

本校は、愛知県碧南市の中央に位置する児童数859名、28学級（内特別支援学級3）の大規模校である。その中で金管バンドクラブは4年生から6年生までの42名が所属している。

活動は週5回、朝練習（7：45～8：10）と放課後、土曜日は午前中に練習を行っている。

毎年新川小学校金管クラブは、市内音楽会や、ライオンズクラブ主催の「親子ふれあいコンサート」、学校内では運動会や学芸会などの行事に参加しており、たくさんの発表の機会をいただいている。それに加えて今年度は、今までよりもさらに演奏技術を向上させることを目指しつつ、今後の活動の励みになるようにと、朝日新聞社主催の「愛知県小学校バンドフェスティバル」へ参加することになった。そのため、子どもたちが楽器を演奏できる達成感を味わうのはもちろんのこと、音楽をよくするために大切なことは何か、そのためにはどのように演奏したらよいか、ということをも自分たちで気づかせたいと考えた。

2 年間活動計画

4月	運動会に向けての練習、コンクール曲の練習
5月	運動会でバトンクラブと合同演奏・演技（演奏曲：千本桜、GUTS!）
6月	管・打楽器講習会に参加（高浜市立高取小学校）
7月	基礎練習、市内音楽会・コンクールに向けての練習
8月	市内音楽会での発表、愛知県小学校バンドフェスティバルに出場（演奏曲：THE ZOO BALL）
9月	学芸会・親子ふれあいコンサートに向けての練習
10月	東海バンドフェスティバルに出場
11月	学芸会での演奏（演奏曲：炎と森のカーニバル、ロックン・ソーラン）
12月	親子ふれあいコンサートでの発表（演奏曲：炎と森のカーニバル、ロックン・ソーラン）
1月	3年生体験入部、仮入部（アンサンブル発表会に向けての練習）
2月	3年生本入部、卒業式歓送演奏に向けての練習（アンサンブル発表会での演奏）
3月	卒業式歓送で演奏（演奏曲：Happiness）

3 活動内容の実践

（1）毎日の基礎練習について

新川小金管クラブでは、合奏力とサウンドの向上を目指し、2年前より基礎合奏を練習の最初に必ず行っている。朝練習がある日は、7時45分に音楽室に集合し、基礎練習を中心に行う。基礎練習は部長の指示のもと、児童のみでも進められるようなメニューを組んでいる。

挨拶の後、マウスピースでバズィングの練習を行う。カデンツをハーモニーディレクターで弾きながら、それに合わせてマウスピースのみで音を鳴らしていく。これは、唇の準備運動になるのはもちろんのこと、マウスピースのみで正しい音程感覚を身につけることもねらいの一つである。

その後、楽器に直接息を吹き込み、時間があれば、顧問が児童一人ひとりの息のスピード感のチェックをする。

楽器を使っての基礎練習は、練習曲（CDを使用。中音域を鳴らす練習→チューナーで音程合わせの練習→変ロ長調のスケール練習）での音出しの後、4拍 B♭ リレー、ロングトーン、ハーモニー練習、バランス練習の順に進めていく。時間に余裕がある日は、これに加えてカデンツ・半音階の練習、リップスラーを行うときもある。

4拍 B♭ リレーでは、ハーモニーディレクターで B♭ の音を鳴らし、一人ずつチューニングの B♭ の音を4拍吹き、2拍の間を入れながら交替で吹いていく。顧問は児童が吹く B♭ の音に対し、「発音」「ピッチ」「音の処理」「音型」について気づいたことを一人ずつに指導していく。ハーモニーディレクターで正しいピッチの音が鳴っている中で自分の音を聞くことで、ピッチの揺らぎを直すことや、音をブレンドさせることをねらいとした。

ハーモニー練習は、曲の中での重要なハーモニーを取り出し、1音→5音→3音と順に重ねて奏することで、自分がハーモニーの中でどの役割なのか、どのようなバランスで吹けばよいのかということ意識して練習ができるようにした。また楽器で演奏する前に、マウスピースのみで音を鳴らしたりハミングで音取りをしたりすることで、正しい音程感覚を身につけることを目標とした。（楽譜1）

バランス練習は、Tu.、Euph. →Tb. →A. Hr. →Tp. の順に音を重ねながらロングトーンをし、各楽器のピッチ、音のブレンド、発音のクリアさ、息のスピード感、音量のバランスをチェックしながら練習を進めた。（楽譜2）

コンクール県大会終了後からは、奏者一人一人の音程感覚をさらに向上させるため、B♭ dur、Fdur、E♭ dur、Cdur の4つの調のスケール練習を、ハーモニーディレクターを使って行っている。

Musical score for Harmonization Practice (楽譜1). It features multiple staves for different instruments, showing a sequence of notes and rests. The title at the top is "ハーモニー練習".

【楽譜1 ハーモニー練習】

Musical score for Balance Practice (楽譜2). It features multiple staves for different instruments, showing a sequence of notes and rests. The title at the top is "バランス練習".

【楽譜2 バランス練習】

(2) 運動会まで

1年で最初の発表行事となる運動会では、開会式・閉会式で入退場曲、君が代を演奏し、バトンクラブとの合同発表も行っている。今年度は「千本桜」と「GUTS!」を演奏した。音が響かない運動場でもしっかりと楽器に息を入れ、良い音、良い姿勢で楽器を鳴らすことを鍛える場となっている。

(3) 市内音楽会、愛知県小学校バンドフェスティバルに向けて

今年度は、市内音楽会・小学校バンドフェスティバルで演奏する曲として、ストラッチャン作曲の「THE ZOO BALL」を選んだ。動物をタイトルにした全12曲で構成されており、ジャズやスウィング、ラグやブルースなど音楽の形式がそれぞれの曲に盛り込まれている。約半年間練習を続けていくにあたり、楽しみながら音楽を学び、演奏技能を高めていくことができる曲だと思い、選曲した。

4月に楽譜を配布したが、運動会の曲の練習と平行して行うため、コンクール曲の合奏は土曜日練習のみとし、平日は練習前の時間に譜読みを進め、合奏の時間は基礎合奏と、運動会での曲の練習とした。

運動会が終わった6月からは、本格的にコンクール曲の合奏に取り組み、音型・アーティキュレーションの付け方や、曲中のユニゾンやハーモニーがきれいに聞こえるように、前述した基礎練習をより細かく突き詰めて練習を行った。

曲の合奏を始めたころは、ハーモニーが濁ってきれいに合わなかったり、音が頭から当たらなかったりと、演奏上の問題が多々あり、なかなか上達しないこともあったが、何度も繰り返して練習を重ねるうちに、ピッチのずれによって生じるうねりやハーモニーのバランスに気づき、すぐに直すことができる児童が増えてきた。中には自分の音のピッチが合っていないと、指示がなくてもチューニング管を抜き差ししたり、自分からチューナーを使って音程を確認する子も出たりして、音に対するこだわりを持つことができるようになってきた。またバランス練習では、全体を二つのグループに分け、お互いに聞き合っただけで気づいたことを言わせるようにした。すると、10月ごろには、「音量をみんなとそろえたほうがいい。」「もっと早くピッチを合わせるように。」「息のスピードが遅かったのもっと速く。」と、普段指導者が注意することを、子どもたち同士でも指導し合えるようになっていた。

8月7日に行われた市内音楽会で



【市内音楽会での演奏】



【愛知県代表として、東海大会で演奏】

は、演奏にスタンドプレーも取り入れ、生き生きと演奏することを目指した。聴いてくださった講師の先生からは、「大変パフォーマンス力のあるバンドです。」とお褒めの言葉をいただくことができた。また8月25日に行われた愛知県小学校バンドフェスティバルでは、初出場ながら金賞を受賞し、東海大会の代表にも選出された（東海大会では銀賞を受賞）。

（４）学芸会・親子ふれあいコンサート

1月に行われる学芸会と、12月に行われる親子ふれあいコンサートは、演奏の時期が近いので、基本的に同じプログラムで演奏することになっている。全校児童の前で発表する二度目の本番となるが、保護者の方や一般のお客様にも楽しんでいただけるよう、ポップス系の曲をプログラムに入れたり、踊りなどのパフォーマンスができるような工夫をしたりしている。今年度は「炎と森のカーニバル」と、北海道民謡のソーラン節をロック調にアレンジした「ロックン・ソーラン」を和太鼓と共に演奏し、大変好評をいただいた。また親子ふれあいコンサートは、毎年安城学園高校吹奏楽部をゲストとして招いているので、全国レベルの素晴らしい演奏を聴くことができ、子どもたちにとってよい刺激となっている。



（５）3年生入部～卒業式まで

1月には3年生の体験入部、仮入部があり、2月には3年生も本部員として活動することになる。楽器の基本的な持ち方や奏法は4、5、6年生で教えるが、しっかりとした音が出るようになるまでしばらくは別室での練習となる。その間、4、5年生は6年生の卒業式歓送での演奏に向けての練習を行う。新体制になって初めての演奏となるので、6年生が大きな力になっていたことを実感する時期であり、また5年生は、来年度自分たちが部を引っ張っていくという自覚を感じるようになる行事でもある。

4 おわりに

2年前より活動の中に基礎合奏を入れてから合奏のサウンドが劇的に変わり、今年度はその成果が最も発揮された年となった。さらに今年度は、練習10分前にはほぼ練習出席者全員が揃い、自主的に合わせ練習を行ったり個人練習を行ったり、できなかったところを合奏練習後にできるまで残って練習をしていく部員の姿もあることから、部員一人一人の自主性が高まってきていることが窺える。

本校は毎日の朝練習に週五回の放課後練習、さらに土曜日練習と、練習回数については恵まれているが、一日の練習時間は朝練習25分、放課後の練習は30分と決して多くはない。その中で子どもたちが、「もっと上手になりたい」と思うにはどうするかをさらに考えていく必要がある。また、基礎合奏は児童のみでも進められるものの、短い練習時間の中ではなかなかパート練習の時間が確保できず、リーダーの育成に時間をかけることができないという課題も感じている。今後は演奏のスキルを上げるだけでなく、生徒指導の機能を生かした部活運営ができるように取り組んでいきたいと思う。

地域に根ざす管楽器活動をめざして

神戸小学校金管バンドクラブ

教諭 山中 幾代

1 はじめに

本校は、鈴鹿市の中心部に位置し、地域には神戸城跡をはじめ、寝釈迦祭り、石取祭りなどの賑やかな祭りが残る、歴史豊かな町にあります。

鈴鹿市の課外活動は、すべて社会教育団体として活動していますが、指導者の多くは教員です。音楽活動をするクラブは金管バンドの他に、リコーダークラブ、合唱団等があります。金管バンドクラブは、以前は県内にいくつもありましたが、指導者の問題等で活動を縮小していったり、徐々になくなったりして減っていきました。市内にはたった2校しかありません。しかし、三重県を代表するバンドとして積極的に演奏活動に取り組み、多くの卒業生が鈴鹿の吹奏楽を盛り上げています。

2 活動について

全校児童640人の大規模校ですが、課外活動に参加する児童は年々減少の傾向にあります。地域の学童保育所が充実していることや、子どもたちの習い事が多様になっていることもあってか、保護者に負担のかかるイメージが強い社会教育活動への参加に二の足を踏む家庭が多いようです。地域の子どもたちが縦のつながりをもつことは、将来的には地域活動を盛り上げる力になると思うのですが、まだまだアピール不足を感じています。

本校の金管バンドクラブは昨年度8名の6年生が卒業生したことで、4月のスタートは6年生1名、5年生1名、4年生4名、3年生2名の8名になりました。とてもコンクールに出場できるような状態ではなく、早速メンバー獲得のため5月に恒例となった中庭での「ハッピーマイルコンサート」を開催しました。演奏後に楽器の体験をするコーナーもあり、その後2名の部員が入部してようやく10名になりました。

夏のコンクールに10人で挑戦し、(県大会：金賞)秋には新しいメンバーをむかえることになりました。総勢12名(新入部員のほとんどが4年生!)の、4年生が主体となるメンバー構成で、秋以降の地域での演奏会にのぞみます。学校の授業や行事の中で演奏を披露する機会がないので、地域での演奏は子どもたちに活動を知ってもらえる絶好のチャンスでもあります。また、地域で必要とされるバンドになれば、学校でも活躍を認められ、活動を応援してもらうことができます。

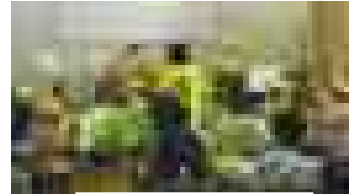
① 「地域に愛されるバンド」になろう

恒例行事以外にも、依頼があれば積極的に参加します。今年度当初は10名のメンバーで曲を仕上げる難しさに苦しみましたが、7月のショッピングセンターでデビュー演奏の後、聞いてくださった方から「感動して涙が出ました。家に帰っても、とってもいい気持ちで、子どもたちの笑顔と充実した顔が心に焼きつき、うれしくてお便りさせていただきました。」というお葉書をいただきました。主催者や、演奏を聞いてくださる方との出会いを大切に、喜んでいただきたいという私たちの思いが演奏を通して伝わったことがとても嬉しく、励みになりました。

ここ数年依頼が増えていることもあり、新入部員を入れた12人でも、たくさんの秋のイベントに向けて練習する苦労は同じです。いつも仲よくしている玉垣小学校と合同で出演するなどしながら、精一杯演奏を届けました。

7月以降の主な活動

- 7月・・・「社会を明るくする運動」でのオープニング演奏（鈴鹿イオンモール）
「鈴鹿市中学校合同演奏会」招待演奏（鈴鹿市民会館）
- 8月・・・西条保育所「お誕生会」での演奏（校区内）
- 9月・・・「西条地区敬老祭」での演奏（西条公民館）
- 10月・・・「神戸スポレクカーニバル」でのランチタイム演奏（神戸小学校運動場）
神戸宗社「秋祭り」での演奏（神戸宗社）
「神戸小・中・高校ジョイントコンサート」（神戸小学校体育館）
- 11月・・・ひまわり（老人介護・リハビリ施設）での演奏（校区内）
「輝けプラス交歓演奏会」（松阪市）
- 12月・・・「吹奏楽フェスティバル in 鈴鹿」（鈴鹿市民会館）
「鈴鹿ライオンズクラブのつどい」での演奏（市内会場）



西条地区敬老祭

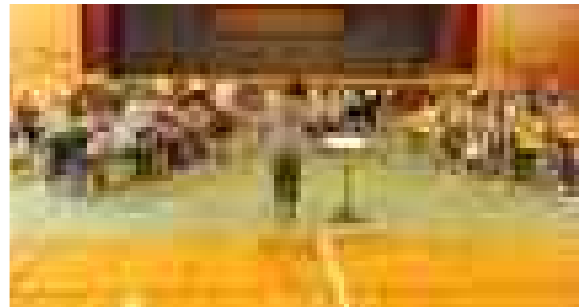
2017年

- 1月・・・ホンダ技研「ユニオンフェスタ」でのオープニング演奏（ホンダ技研工場内）
アンサンブルコンテスト県大会（三重県文化会館）
- 2月・・・北勢地区バンドフェスティバル（鈴鹿市）
アンサンブルコンテスト東海大会（愛知県）
- 3月・・・第22回お別れ演奏会（神戸小学校体育館）

② 他バンドとの交流

鈴鹿市は、吹奏楽がさかんです。小学校の合同バンド演奏はもちろん、校区の中学校、高校とジョイントコンサートをしたり、市が主催する吹奏楽フェスティバルなどで市内の中高生のバンドと合同演奏したり、また、県民文化祭では県内の吹奏楽が集まって演奏するなど、交流の機会が多くあります。

今年度も14回目を迎えた神戸小・中・高校ジョイントコンサートを10月に開催しました。楽しみにしてくださっている地域の方や児童生徒がたくさん来てくださり、アンケートには励ましの言葉や、「来年も必ず来ます。」といったメッセージを寄せてくださいます。



「三重県小学校合同バンド」の合同練習

3 おわりに

今年度は、「どうすればもっと良い音になるか」、「音楽をどう表現すれば伝わるか」、ということよりも、「素晴らしいバンドとはどんなバンドか」といった、心を鍛え、磨くことに時間がかかりました。自分の心を見つめ、クラブの一員としての行動を問われる日々が続きました。

私たちの活動は、多くの方々に支えられています。親の会の絶大な協力はもちろんのこと、練習場所をお借りしている学校や、イベントに声をかけてくださる地域の方、練習や本番の演奏を見に来てくれる卒業生やその保護者など、惜しめない愛情を注いでくださる方々に力をもらって今日まで活動を続けていくことができました。今後も子どもたちとともに、日々感謝することを忘れず、音楽をよりよい音楽づくりをする努力を積んでいきたいと思えます。

子供たちの充実した管楽器クラブの活動を目指して —地域の方や教職員の協働を基盤として—

富山県射水市立小杉小学校

教諭 高畑 真美

1 はじめに

本校は富山県射水市の中心部に位置し、全校児童数596名、全21学級の学校である。今年度で創立143年を迎える歴史ある学校である。学校教育目標を『強いからだ』『創る力』『愛の心』を兼ね備え、たくましく生きる子供の育成」とし、「子供一人一人に寄り添い、よさを生かす」「子供の自尊感情を高める」を今年度の重点目標としている。

2 活動について

本校の管楽器クラブの指導は、2週間に1回のクラブ活動が主な活動時間となる。学習発表会や富山県小学校バンドフェスティバルが近くなると、体や音作りを目的とした朝の練習や、演奏曲のパート練習やセクション練習を目的とした放課後練習を行う。本校では地域の方が学校の学習をサポートしてくださる体制が整えられており、子供たちは管楽器の専門的な指導を受けることができる。

(1) 活動を貫く思い

管楽器クラブの運営方針として最も大切にしていることは「立場や役割の異なる子供たちが相互の信頼関係を基盤として協力して一つのものを作り上げていく過程を味わうこと」である。トランペットとチューバでは楽器の形や音色が異なるだけでなく、曲中における役割も異なる。指導に当たる管楽器クラブ担当者は「曲の演奏後、やりきったという達成感を感じてほしい」「合奏をすることで、仲間の大切さに気が付いてほしい」等の活動への思いをもって取り組んでいる。また、関わってくださる地域の学習サポーターの方も「生涯を通し音楽を楽しんでほしい」「楽器を演奏し続けてほしい」という願いをもって指導に当たってくださっている。思いや願いの異なるスタッフが、それぞれの立場と役割を調整し協働しながらクラブを運営することは、子供たちが協働的な活動を学ぶ上でのモデルとなるであろう。管楽器の演奏は、多くのパートが重なり合っこそ厚みのある演奏となる。管楽器クラブの活動を通し、協働する楽しさ、喜びを味わってほしいと思っている。

(2) 活動を支えてくださる方々

～地域の学習サポーターの先生方やスクールバンドパワーアップ事業の先生方～

本校では前述した通り、学習サポーターとして3名の地域の方に協力していただいている。学習サポーターの先生方の丁寧な指導は、子供たちにとって大変分かりやすく、貴重な時間となっている。また、富山県小学校管楽器教育研究会では管楽器指導者の力量形成の一環として「スクールバンドパワーアップ派遣事業」というバンド指導の経験豊富な先生方に指導していただく取組がある。年に数回指導をお願いし、子供たちの演奏だけでなくクラブ担当者へも指導方法を教えていただいている。

(3) 活動内容

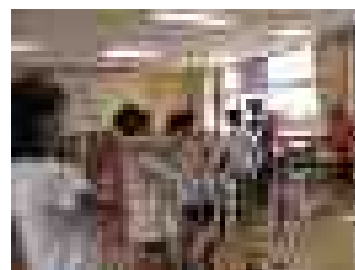
① 運動会での校歌演奏（5月）

5月の運動会の閉会式で、子供たちは校歌を演奏した。全校が歌いやすいように、校歌はほとんどの楽器がメロディを演奏する。4月末から5月末までの約一か月の練習の中で、よりよい演奏ができるように子供たちは朝や休み時間、放課後に練習を積み重ねてきた。一年間の活動をスタートさせる行事となっている。



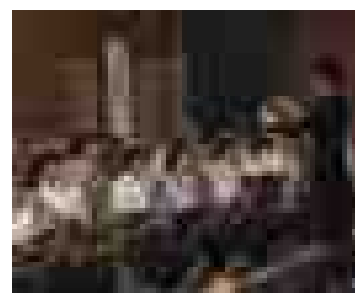
② 楽器の使い方の講習会（6月）

地域の方をお招きして、楽器の使い方や演奏の基礎基本について学ぶ講習会を行った。それぞれの楽器についての細かい部分について教えていただけるだけでなく、今年度の学習発表会やバンドフェスティバルの演奏曲を即興で演奏していただいた。子供たちは「自分もこんな風に演奏できるようになりたい。」「一生懸命頑張りたい。」という願いをもつことができた。



③ 学習発表会（10月）

学習発表会では、バンドフェスティバルに演奏する2曲を演奏している。保護者の方だけでなく、普段一緒に過ごす友達に演奏を聴いてもらう大切な機会となっている。大きな体育館での演奏は、音楽室で練習しているときと音の響き方が異なるため、美しい音を遠くまで届けることを意識して練習を行っている。たくさんの拍手をもらい、子供たちは自信を深めていくことができた。



④ 富山県小学校バンドフェスティバル（11月）

子供たちは、県内の小学校の管楽器バンドが一堂に会して演奏を発表しあう「富山県小学校バンドフェスティバル」への参加を心から楽しみにしている。今年度は、「宇宙戦艦ヤマト」と「踊りあかそう」の2曲を演奏した。これまでの練習や一緒に練習してきた仲間との絆を大切に、楽しんで演奏することを目当てとしている。本番では練習の成果を発揮して、素敵な演奏をすることができた。

3 おわりに

管楽器クラブの指導をまとめる中で、大変多くの方に支えられて管楽器クラブの活動が成り立っていることを改めて感じた。子供たちが「仲間と協力して何かを成し遂げることの喜び」、そして「支えてくださる方への感謝の気持ち」を大切により豊かな人生を送る契機となることを願い、今後も管楽器クラブの指導をしていきたい。

体験できるすばらしさに感謝して

福井県大野市立下庄小学校
教諭 岩崎 比美子

1 はじめに

本校では30年以上前より、特別クラブを特設しています。特別クラブとは、放課後活動するクラブのことです。特別クラブを設けた最初の目的は、大変校区が広いために、なかなか放課後子ども同士で遊ぶ機会が他の学校より少ないため、少しでも子ども同士の関わり合いの機会を増やそうという目的でした。その特別クラブの中に現在、相撲・陸上・駅伝・スーパードッジ・クロスカントリーそして金管バンドがあります。

金管バンドクラブは、現在45名のクラブ員（6年生8名、5年生17名、4年生13名、3年生7名）で活動しています。活動時間は、毎週火曜日と金曜日の放課後4時から5時までです。（コンクール前は練習日や時間に変更になります。）

近年、年々児童数が減る中で、家庭や地域の協力も得ながら、多くのクラブ員で活動できることをとてもありがたく感じています。

2 実践事例

(1) 普段の練習について

週2回の練習を行っています。トランペット・アルトホルン・トロンボーン・ユーホニウム・バス・打楽器の6パートに分かれて、上級生が下級生を教える形で練習を行っています。楽器の持ち方や吹き方はもちろん、後始末の仕方まで丁寧に上級生が下級生に教えます。そのため、金管バンド担当者が、楽器を扱えなくてもクラブの練習に支障はありません。私も音楽主任という立場ですが、ピアノ以外にできる楽器はなく、担当した当初はとても不安でした。

送り迎えの協力を保護者の方をお願いしているため、月1回お便りを出して練習予定をお知らせしています。

また、縦のつながりが良好なため、中学校に行ってもそのまま吹奏楽部に入部することが多いのがありがたいです。今年度もたくさんの中学1年生が吹奏楽部に入部しました。



(2) 学校行事への参加

・入学式での演奏

新入生の前で、「君が代」や「校歌」を演奏します。新クラブ員の勧誘も含めているため、張り切って演奏していました。

・月1回の全校集会での演奏

全校集会の時は、校歌と退場の曲を演奏しています。金管バンドの演奏で、全校が歌うととても凛とした雰囲気があります。金管バンド以外の児童にも金管の音や合奏の良さが感じられてとてもいい機会だと思います。楽器の準備や後始末に時間がかかりますが、全職員の協力のもと行われています。

・校内体育大会での演奏

入場行進曲の他に、「君が代」、「ファンファーレ」3曲、「得賞歌」を開閉会式で演奏しました。お家の方や地域の方に練習の成果を聞いていただけるため、夏休みから練習に励みました。

体育大会での演奏曲は6年生が決めるため、他の児童からも人気のある曲になることが多いです。その為、金管バンドの演奏がかっこいいと感じる児童が増えるようです。さらにお家の方も演奏を聞かれて金管バンドの良さを感じ子どもに入部を進めるため、校内体育大会後に金管バンドクラブに入れた

いという希望者が増えます。今年度も4年生や3年生の中から、来年度は入りたいという声が聞かれました。

・卒業式での演奏

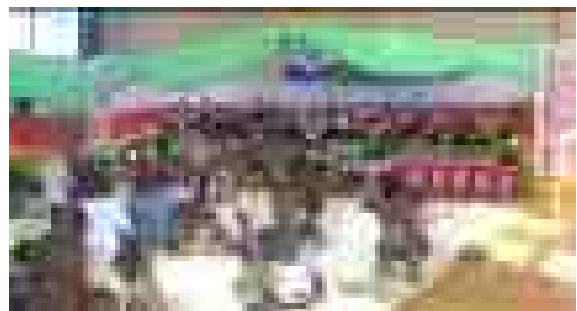
卒業生の入場の際には、「威風堂々」を演奏します。また、「君が代」、「校歌」も演奏します。6年生が引退した後なので、5年生が中心となって練習を進めます。お世話になった6年生に感謝を伝えられる意味でも大切なことだと思います。この時は失敗が無いように、児童も細心の注意を払って演奏します。今年度も1月より練習を始めます。

(3) ふれあいコンサートでの演奏

毎年地区内の中学校で夏休みにPTA主催の「ふれあいコンサート」が開かれます。そのコンサートに今年も賛助出演させて頂きました。2曲演奏しました。1曲は自校だけの演奏ですが、もう1曲は中学生とコラボしました。中学生の素敵な音を聞いて、意欲も高まりました。

(4) 公民館まつりでの演奏

地区の公民館まつりでのオープニングの演奏をお願いされて、演奏してきました。この演奏は、新入部員のデビューを兼ねていました。45名の演奏は圧巻でした。地区の方々も会場いっぱいに詰めかけてくださったので、演奏もノリノリでした。たくさんの拍手をもらってとても満足そうでした。



楽器の搬入から後始末まで地区の方が協力して下さいととてもありがたかったです。

その他にも地区の神社の夏祭りの演奏を頼まれました。今年度は準備できませんでしたが、地区の方に演奏を望まれることは、児童にとってもうれしいことでした。

(5) 地区のアンサンブルコンテストに参加

12月25日(土)に行われた地区のアンサンブルコンテストに参加しました。5チームに分かれて出場しました。10月より練習を増やし(週4回で、練習時間も30分延長)頑張りました。日頃は、たくさんの人数の演奏に頼っていることもありましたが、アンサンブルは少人数なので1人の責任が重くなります。練習量も多く大変でしたが、個人の力がうんと伸びました。そのうちの1チームが最優秀賞となり、現在県のアンサンブルコンテストに向けて練習に取り組んでいます。



3 終わりに

金管バンドの練習は、児童たちにとっても決して楽ではありません。しかし学校に楽器があり、協力して下さるお家の方や地域の方がいることに感謝して、練習に励んでほしいと思います。そして金管楽器に触れる体験ができる喜び、みんなと演奏できることの素晴らしさを感じ、その思いを人にも伝えていってほしいなと願って活動を続けていきたいです。

平成28年度 東海北陸小学校管楽器教育研究会 役員名簿

会 長	愛知県	山田 純一郎	知多市立八幡小学校
副 会 長	愛知県	青木 香織	名古屋市立東丘小学校
	三重県	西田 尚史	松阪市立射和小学校
	富山県	宮崎 新悟	黒部市立たかせ小学校
	石川県	荒木 泰彦	金沢市立伏見台小学校
	福井県	上野 澄子	福井市立順化小学校
理 事	愛知県	村瀬 慶美	名古屋市立松原小学校
	三重県	山中 幾代	鈴鹿市立神戸小学校
	富山県	藤井 昭彦	舟橋村立舟橋小学校
	富山県	川添 等	富山市立大沢野小学校
	石川県	河村 努	内灘町立大根布小学校
	福井県	橋本 知子	鯖江市立豊小学校
事務局長	愛知県	小嶋 正嗣	半田市立板山小学校
会 計	愛知県	渡辺 琴巳	知多市立新田小学校
監 事	愛知県	秋山 優子	名古屋市立大高小学校
	三重県	小島 誠伺	松阪市子ども発達総合支援センター
	富山県	頼成 智秀	富山市立鶴坂小学校

あとがき

各地区の実践から、「仲間と管楽器を演奏する喜び」や「努力し続けることの大切さ」が伝わって参りました。美しいサウンドを追求する中で、「相互理解・交流・協働」といった機会を大切にして、子どもたちの仲間を思いやる気持ちや地域に愛着と誇りをもつ気持ちが育っているように感じます。さらに、管楽器活動を通して、音楽の輪と和が広がっていくことを願っております。

最後にご執筆いただきました先生方をはじめ、関係の先生方には心からお礼を申し上げます。また、ご一読いただきました会員の皆様からは、温かいご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

東海北陸小学校管楽器教育研究会事務局長 小嶋 正嗣

小学校管楽器活動実践事例集（第17集）

平成29年3月 発行

発行者 東海北陸小学校管楽器教育研究会

協賛 (株) ヤマハミュージックジャパン